

LORC 第2班第7回研究会議事録

日時：1月21日(土) 17:00 - 18:30

会場：キャンパスプラザ京都6F 龍谷大学サテライト教室

参加者：Richard Billingham (講演者)、香西由美子 (通訳者)

富野 暉一郎、安部 圭宏、韓富榮、阪口 春彦、西田 俊之、林田 久充、
深尾 昌峰、松浦さと子、朴 重信 (敬省略、11名)

富野

<挨拶とビルinghamさんの紹介>

<各自自己紹介>

講演 - Richard Billingham

「バーミンガム市における新たな職員研修システムの構築」について

<内容要約>

1. バーミンガム市の職員研修システムの全体像

職員研修担当部署：人事(関係)部

主な仕事：トレーニング(ハードとソフトウェアスキル)、マネジメント、組織等の開発

トレーナー：各部門で50~60人が存在。実際トレーニングをデザインする人は5~10人。

2. 国と社会的な状況

資格に対して国の専門性に対する要求がますます厳しくなっている。国の資格をもっていなければ遂行できない。

このトレーニングシステムには国からかなりの資金が提供されている。

3. トレーニングの内容

ソフト的

- 自己紹介のスキル、コミュニケーションのとり方、ネゴシエーションの仕方、攻撃的な態度に対する対処法など

ハード的

- プロジェクトマネジメント、ポリシー、パフォーマンスの取り方など

4. パスウェイづくり

自分の価値、職と関連していることがわかるようにする。

人々にニーズに対応するために現場のディレクターから話を聞きながら模索する。

5. 「どのように人をマネジメントするのか」について

レビューを6ヶ月ごとにし、達成度をチェック。

研修後に一人一人の到達点をチェック。

トレーニングの結果から自分自身でニーズを特定。

最後にニーズを総合することで自ら必要なものを認識。

6. 新しいシステムを導入 - 企業からビジネスパートナーモデルを導入

取引のように、標準的なモデルとしてアウトソーシングの仕方を取る。

なにを必要としているのかを中心にサービスを変えていく。

7. 人の開発の4つのキー

スキルとキャリアのパスウェイ

枠組みとしては、重要なスキルを特定し、そのスキルパスウェイを把握

基礎的なスキル；読み書き、ITスキルなど

E - スキル

< 質疑応答 >

富野：

大学や地域のトレーニング資源をどのようにつかっているのか。バーミンガム市では大学はあまり役に立てないと感じたが、何が役に立てないか。

ピリングム：

最初は大学との連携を進めたが、バーミンガム市で実際必要とするものを大学先生に言っても聞いてくれない。過去10年間、バーミンガム大学とパブリックサービス、マネジメントMBAなどを通じて連携してきたが、ニーズに合致しなかった。例え、論文を書くことで評価する伝統的な評価方法ではなく、現場で直接評価できる何らかの評価方法を求めたわけである。現場の経験豊かなマネージャが中心となって、現場で直接評価する方法を採択した。現在は国の認証機関の専門家のコンサルタントと連携して仕事をしている。しかしコンサルタントのスタッフは元大学の先生が大半で、現場と理論を兼備した専門家に依頼している。

韓：

日本とバーミンガム市の違いを端的に言うと、日本はジェネラルリストを創出しようとしており、バーミンガムではスペシャリストを創出することと理解している。バーミンガム市の新入職員の場合、初めて市役所で受ける教育はこういうものなのか。

ピリングム：

最初に入ってきたらオリエンテーションを行い、組織を知ってもらう。また、マネージャクラスに入ってくると、マネージャにはスタンダード知識とスキルを中心に教育する。知識の面ではEラーニングを目指して教育しており、スキルは半日でできるスキルベースのワ

ークショップを開発している。

富野：

大学と大学院の役割についてどのように考えているのか。大学では公務員の目指す社会構造との中で市民とどのような関係を持つのかなど、主にマインドや倫理の教育を担当していると思うが。

ピリングラム：

大学がやるべきことをやれば素晴らしいことだと思う。私の経験から言うと、大学と教育機関は教える態度をやめるべきだと思う。手伝う方向でやらなくてはならない。マネージャは市民とどのような関係をもつのかは心の問題である。市民と仕事を一緒にする方法を探るべきである。大学は自治体を促すような良い場所にあると思う。指示する大学の方法論よりは、問いかけをしてみるとかのアプローチをすとうまくいくと思う。

富野：

スキルは教えられるが、心の問題は難しい。権力を持っている行政が、行政をやるべきことを職員の一人一人が知ってほしい。

ピリングラム：

市民と行政はお互いにどの立場であるかを共有するべきだと思う。

阿倍：

自治区の話だが、市町村の合併など地域運営に期待をしている。自治区における職員の役割は？

ピリングラム：

自治区の政治的な状況についての問題だと思う。ネーバフッドフォーラムが立ち上がり、議員、公務員、コミュニティグループ、市民の代表が参加している。この組織には予算に与えられ、予算をどのように使うかを独自で意思決定する。11つ自治区に対する機能的なサービスがあり、それぞれサービスを提供している。11つの自治区にはそれぞれのディレクターがいる。ブレア首相の指示で市民をカスタマーと呼んでいる。役割としては、例えば、住宅関連、道路周辺の照明、近隣地域の管理に関する部門もある。地域の開発・企画、パートナーシップ、より広範な部門もある。

富野：

ディレクターの選び方は？

ピリングラム :

ディレクターは決められた被雇用者である。一つの問題はディレクターが権力を持ち始めたことである。さらに組織の中で地位以上の力を持つようとしている。例え、議員がディレクターに対して意思決定に関して力を持ちすぎではないかと懸念している。

韓 :

ネーバフッドフォーラムの機能は？ 特別な機能は？

ピリングラム :

市役所と同じような機能を持つネーバフッドオフィスがあって、市民がアクセスすることができ、また、住宅関連の業務も行っている。

松浦 :

市民組織などの人たちは、この研修システムとどのような関連をもっているのか。

ピリングラム :

今日、パブリックサービスコンパクトについて話したが、そこで話していない部分がある。このパブリックサービスコンパクトには、公共施設、ボランティアの参加できる枠組み、資金の枠組みもできている。このなかに、市民団体、NPO 団体などはまだ入っていないが、入りたいという声が多く出ている。

富野 :

これからできるだけ情報を交換しながら、お互いに発展できれば良いと思う。

以上